

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|---|--|----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | |
| 1. 理念と共有 | | | |
| 1 | <input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 自立した日常生活を営むことができるよう援助し、「オンリーワン・アットホーム」～笑顔のたえないあなたと私」の独自の理念を挙げている | |
| 2 | <input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念を見やすい場所に掲示し、業務検討会や職員会において、理念や基本方針に基づいたケアを実践している | |
| 3 | <input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる | 家族や面会者に、理念や基本方針に基づいた支援の取組を、機会がある度に説明をしている | |
| 2. 地域との支えあい | | | |
| 4 | <input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | 園庭を地域の老人会に、ペタンクコートとして利用していただき、時々草刈をしていただいている 季節の野菜や花をいただき、演芸ボランティア時には招待している | |
| 5 | <input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地区の祭りや行事に参加、見学している 毎年8月には法人の盆踊り大会があり、参加を呼びかけている | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|--|------|----------------------------------|
| 6 | ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | ボランティアの踊りや演奏のある時は、地域の方に声掛けをし、お誘いをしている | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 外部評価の報告を行い、評価事項について改善が必要と思われる支援については、優先順位をつけ、全員で改善に努めている | | |
| 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営委員会で取上げられた問題点を介護従事者に報告し、解決策を職員全員で話し合い、改善に努めている | | |
| 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市町村が開催する介護研修会に積極的に参加する様にし、それらがサービスの向上に繋がるよう努めている | | |
| 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | パンフレットにて制度についての情報を提供している 今のところ必要な方はいない | | |
| 11 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待についての研修会を行い、日頃から、会話や態度について十分に気を配っている | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|--|--|----------------------------------|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | |
| 12 | ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所申込者、又はその家族から、サービス提供前の問合せ、及び見学に対する仕組みがある 契約の際には、契約書及び重要事項で丁寧に説明している | |
| 13 | ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会の委員に入居者代表がおり、生活についての相談を聞いてもらい、会員より意見を求め、それらについて、介護従事者と検討会を行い、支援に活かしている | |
| 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 面会の少ない家族には、電話で生活の様子を知らせている 健康状態に変化が見られる時は、随時電話による連絡をしている 広報紙を作成し送付している | |
| 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族に面会時には、要望や意見を聞くようにしている 出された意見や要望については、職員会時に話し合い、改善に努めている 苦情を窓口で受けていることや、苦情受付機関がある事を重要事項説明書にて説明している | |
| 16 | ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回の連絡会、毎日のミーティング時、個々の意見を引出し、全員で話し合っている | |
| 17 | ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | 入居者や家族の状況等、個別の要望にそって支援を行うため、臨機応変に対応している 職員に急な休みが必要な場合は、調整を行っている | ○ |
| 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の移動がある場合は、タイミングを見て、入居者様の負担にならないよう配慮している | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|---|--|----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 施設外研修会には全員に参加を呼びかけ出席している 認知症の方について日頃からどのように対応しているのか、どのような声掛けをした方がいいのか等、随時話し合いの場をもち、検討している | |
| 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 職場外研修会に積極的に参加し、情報を収集し、サービスの向上に努めている、 | ○ |
| 21 | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 職場外において、親睦会を設け、気分転換や信頼関係を深めている ホールの一角にコタツがあり、日中はそこでの休息が心身を休める場となっている | |
| 22 | ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 行事等は起案書を作成し、目的や内容を全員が把握し、実施後は反省会を行い、次回に活かしている | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | |
| 23 | ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 入所時から本人の思いに耳を傾け、職員はその思いを受入れ、理解するよう努めている 本人から相談があった時は、ゆっくりと話を聞き、要望や思いを受けとめる努力をしている | |
| 24 | ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | ゆっくりと時間をかけて話を聞き、要望や思いを受けとめる努力をしている | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|--|--|------|----------------------------------|
| 25 | ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人、家族の要望を基に、優先順位をつけ、一緒にサービスを決定している | | |
| 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入所申込者、又は家族からのサービス提供契約前の問合せや、見学に応じている サービス内容については自宅での状況とすり合わせ、居室からホールで過ごす時間を増やし、食事づくりや、趣味活動を通して、馴染んでいく事が出来るような雰囲気をつくっている | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 入居者主体を念頭に、本人が意思決定できるような声掛け、雰囲気づくりを心掛けている 調理時は味付け、料理方を教わり、自信をもってできるよう気を配っている | | |
| 28 | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 家族の面会時に、現状の報告や本人の望む事は何かを、家族と一緒に話し合い、サービスを提供している 通院など、家族の協力できる事はお願いしている | | |
| 29 | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | お盆や正月には出来るだけ外出、外泊ができるよう話をしている 家族に電話をいれたい時は、ホームの電話から100番を通じ、いつでもかける事が出来るようにしてある | | |
| 30 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | いきつけの美容院に通っている方がいる 以前から付き合いのある和菓子やに電話をいれ、季節のものを職員と一緒に買いに行き、店主がご本人の好み承知しており、会話がはずみ、季節ごとの買物を楽しみにしておられる方がいる | | |
| 31 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | レクリエーション、買物、ドライブ等、気の合う同士誘い合ったり、時々全員で弁当持参でかけたたりと、入居者同士の関係がうまくいくよう配慮している | ○ | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|---|--|------|----------------------------------|
| 32 | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 本人、家族に出会った時は、その後どう過されておられるのか等会話を交わしている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 発言や行動、生活歴との関係から、本人の思いを探り、理解するよう努めている できる限り本人が意思決定できるような声掛けに努めている | | |
| 34 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所前に自宅を訪問し、これまでの生活環境、趣味、本人の思いを把握し、その人らしく生活できる環境をつくり、できるだけこれまでの生活に近い暮らしができるよう支援している | | |
| 35 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 朝夕のミーティングや、カンファレンスにおいて、本人の訴えや、現状把握に努めている 本人のできるところ、できないところの見極めが出きるよう、職員のきずきを養っている | ○ | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 浴室に、滑り止めマットを敷いて転倒の再発を防いでいる 本人、家族の要望を聞き、必要な関係者も含め、介護計画を作成している | | |
| 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 入居者に変化があった場合は、随時、家族や関係者に相談している毎月1回カンファレンスを実施し、支援の統一と、現状に適した介護を行っている | ○ | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------|--|--|------|----------------------------------|
| 38 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別のカードックスに支援の経過記録を残し、職員がいつでも閲覧できるようにしている 連絡ノートを用意し、情報提供できるように、いつでもだれでも記入、見ることができるようにしてある | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | ホーム専用の軽自動車があり、通院、買物等、希望時に対応している | | |
| つう | | | | |
| 40 | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 年末とお盆前に、中学生ボランティアに窓拭きを行ってもらっている 園庭を地区のペタンコートに利用していただき、時々は草係りを行ってもらっている 踊りのボランティアに知りあいがあり、いつでも協力していただける体制がある | | |
| 41 | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 入所前に担当のケアマネージャと連絡をとり、本人の生活の様子や家族の希望等の情報収集を行っている 今のところ他のサービスを希望されてる方はおられない | | |
| 42 | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 地域包括センター主催の研修会や介護教室には、積極的に参加し、支援の向上に努めている | | |
| 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医で定期的を受診し、服薬や生活に関する相談を行っている 定期受診の外に、本人の希望や体調不良時には、柔軟な対応を行っている | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----|---|--|------|----------------------------------|
| 44 | ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | かかり医や専門医で受診時、生活の様子を報告し、治療方針や服薬等について、助言や指示をいただいている | | |
| 45 | ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 毎日、体温、血圧を測定し記録に残している 看護職員を配置し、常に入居者の健康管理や状態変化に応じた支援をしている | | |
| 46 | ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 入院時には病室を訪ね、状態把握に努めている 環境の変化による認知症の悪化を防止する為にも、病院の担当看護師と連絡をとりながら、退院の時期を検討している 入院時も本人、家族の支えになり、退院計画を、病院関係者と一緒に進めている | | |
| 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 看取りについての指針がある 本人、家族、医療機関、介護従事者と連携をとりながら、全員が支援を共有していく | | |
| 48 | ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | 医療機関、本人、家族、介護従事者と連携を図りながら、安全と安心を確保した支援を支援を行う | | |
| 49 | ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | グループホームでの生活の様子や支援状況を、家族や担当ケアマネに情報提供し、環境の変化を最小限に支援できるようにしている | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|--|--|----------------------------------|
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | |
| 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 日常の会話や態度を、常に人生の先輩であるとうやう尊敬の意識をもつよう心がけている 個人情報のファイルをつくり、鍵のかかる書庫に保管している | |
| 51 | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | 本人がどうしたいのかを自己決定できるような声掛けや、対応を心がけ、入居者自身が納得のできる支援をしている | |
| 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員の思いではなく、本人がどうしたいかを自己決定できるような声掛けを心がけている 一人ひとりの思いを大切に、個別的な過ごし方ができるように対応している | ○ |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 53 | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | 以前から行きつけの美容院に家族と一緒に出かける方がいる 外出時は、以前の習慣から、みだしなみに気をつけられ、おしゃれをしてでかけられる方がいる | |
| 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 調理、盛り付け、片付けを、それぞれ入居者のできる方が、職員と一緒に楽しい雰囲気で作業が出るよう配慮している 味付け、刻み具合、嗜好の違いなどは個人の思いを優先している | |
| 55 | ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | 牛乳、プリン、紅茶、コーヒーなど揃え、いつでも自由に飲んでいただけるよう、食堂の一角にポットと一緒に準備をしている | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|--|---|------|----------------------------------|
| 56 | ○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 夜間トイレに通うことが困難な方がおり、居室にポータトイレを置いている トイレの入り口から、便座周辺に手摺りを設置し、出来るだけ自分で排泄ができるよう自立と、プライバシー保持に努めている | | |
| 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴介助の必要な方は、本人がゆとりを持ち、リラックスして入浴できるよう、プライバシーの保持に心がけている | | |
| 58 | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 日中に身体を動かし、なるべく活動に参加していただき、生活リズムをつくるよう声掛けをし、夜間眠れるよう支援している | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 調理、洗濯たたみ、食器洗いなど、それぞれが得意な分野で、自発的に行えるよう支援している | | |
| 60 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭管理のできる方は、自分でこずかい程度もっておられ、病院受診時や、買物に行かれた時は、自分で支払いをしていただいている | | |
| 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | ホーム専用の軽自動車があり、出来るだけ個人の要望にそって、行きたい場所に行きたい時間にでかける事が出来るよう支援している | | |
| 62 | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 家族が時々面会に来られる方で、彼岸や、お盆にお墓参りに行かれる方がいる 法人の乗用車を借り、全員で、弁当持参し、紅葉見学や、花見に出かけている | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|---|---|------|----------------------------------|
| 63 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 子機を使い、100番を通じ、居室でいつでも、電話が出きるようにしている | | |
| 64 | ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 個人の居室で話やすい環境を提供している ホールの一角にポット、コーヒー、お茶等そろえておき、入居者自身が、いつでもお茶を接待できるようにしている | | |
| 65 | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | マニュアルを作成し、職員全員周知徹底している 身体拘束が必要な方はおられない | | |
| 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は居室、玄関に鍵をかけず、自由に生活されている 夜間のみ外部者進入防止の為、鍵をかけている | | |
| 67 | ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | カウンター式のオープンな事務所になっており、居室や玄関の見える位置にあり、入居者様の様子を見守ることができる 夜間の待機場所でもあり、居室からの物音に注意し、必要はコールを押していただき、安全対策に努めている | ○ | |
| 68 | ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 入所時に、本人、家族と一緒に持ち物記入表を書いていただき、危険性があり、必要でないものは、本人了解の下で、ご家族に持って帰っていただいている | | |
| 69 | ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 事故発生時、あわてず、迅速に対応できるよう、避難訓練、救命訓練を、毎月1回自発的に実施している ヒヤリハット記入に取組、ミーティング時原因追求をし、再発防止に努めている | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|--|------|----------------------------------|
| 70 | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 急変時や、事故発生時にあわてず落ち着いて対応できるよう、毎月1回自発的に救命訓練を実施している 年1回応急手当法を消防署職員の指導により、実施している | | |
| 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年1回、全職員が避難訓練、消火訓練を消防署職員の指導により実施する 毎月1回、自発的に避難訓練を実施し、消火器の位置、使用方法、通報、避難経路の確認など一連の動作を、声に出して行っている | | |
| 72 | ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている | 生活の様子を通して、リスクに関する説明を、本人、家族と一緒に話し合いの上、支援を行っている | | |
| 73 | ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 毎日健康チェックを実施し、普段から個人の血圧や体温を把握し、状態変化の発見に努めている 状態変化時はかかりつけ医で受診している 申送り時や、連絡ノート、個人記録に記録し、全職員が状態を理解している | | |
| 74 | ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個人の服薬状況をファイルにとじ、全職員が把握できるようにしている 受診に伴う服薬変更時は看護師より、服薬に関する説明をしている服薬時は必ず名前の再確認をし誤薬防止に努めている | | |
| 75 | ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 毎朝健康体操を行い、出来るだけ参加の声掛けをし、身体を動かすようにしている おやつに牛乳、ヨーグルト等乳製品を取入れたり、水分摂取の声掛けを行っている 長い廊下を利用し、歩行運動される方がいる | | |
| 76 | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 週1回、義歯の消毒を行っている 毎食後、口腔ケアの声掛けを行っているが、今までの習慣もあり、最小限夕食後の口腔ケアは行ってもらっている | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|---|--|----------------------------------|
| 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取量チェックを行い、個人の摂取量把握に努めている 個人の嗜好を取り入れ、バランスのとれた食事が提供できるよう配慮している | |
| 78 | ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | インフルエンザ予防接種を本人、家族の同意の下に接種している 感染予防対応マニュアルがあり、職員全員周知徹底している 外出から帰ったときは、必ず手洗いとうがいを励行している | |
| 79 | ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | おしぼり、まな板、ふきんなど、定期的にハイター消毒している 個人のコップ、湯のみを定期的に消毒している 新鮮な食材の購入に心掛けている | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | |
| 80 | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 玄関に木製の手摺りを設置し、履物の履きかえが、安全に出来るようにしている 玄関前に花壇があり、春はチューリップ、夏はヒマワリ、秋はコスモスと、季節の花を植え、和やかな雰囲気由来客を迎えている | |
| 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホールの一角に、季節ごとの花を活けた、飾りもちや凧、雛人形、こいのぼり、七夕かざり、ススキ、クリスマスツリー等の飾り物をして、季節を味わっていただいている | |
| 82 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | コタツの側にソファを置き、足の悪い方も周囲に気兼ねなく一人で腰掛ける事ができるようにしてある ソファと丸テーブルを置き、気のあった者同士が会話できる雰囲気をつくっている | ○ |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|---|---|------|----------------------------------|
| 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた家具や持ち物を居室に置き、入所前との環境変化を出来るだけ少なくしている | | |
| 84 | ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 居室に換気扇が設置してある 各居室にエアコンがあり、個人の希望や、体調にあわせて温度調整を行っている 居室掃除チェック表を作成し、入居者と一緒に定期的に掃除をしている | | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下、トイレに手摺りがあり安全に移動できるようにしてある 歩行状態に併せ、押し車、歩行器、車椅子、杖を使用している 入浴時に歩行が困難な方にシャワーキャリーを準備し、安心して入浴できるようにしている | | |
| 86 | ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 居室入り口に表札を置いている トイレの場所が解るよう表示している 職員は、入居者の行動や発言を否定せず、耳を傾ける姿勢を心掛けている | | |
| 87 | ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | ベランダに洗濯物や布団を干される方がいる 畑があり、食材用の野菜を植え、調理時に利用することでみんなが喜んでおられる | | |

| V. サービスの成果に関する項目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|------------------|--|-----------------------|--------------|
| 項 目 | | | |
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ○ | ①ほぼ全ての利用者の |
| | | | ②利用者の2/3くらいの |
| | | | ③利用者の1/3くらいの |
| | | | ④ほとんど掴んでいない |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ○ | ①毎日ある |
| | | | ②数日に1回程度ある |
| | | | ③たまにある |
| | | | ④ほとんどない |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 94 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ○ | ①ほぼ全ての家族と |
| | | | ②家族の2/3くらいと |
| | | | ③家族の1/3くらいと |
| | | | ④ほとんどできていない |

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|-----|---|-----------------------|--------------|
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ○ | ①ほぼ毎日のように |
| | | | ②数日に1回程度 |
| | | | ③たまに |
| | | | ④ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | ○ | ①大いに増えている |
| | | | ②少しずつ増えている |
| | | | ③あまり増えていない |
| | | | ④全くいない |
| 98 | 職員は、生き生きと働いている | ○ | ①ほぼ全ての職員が |
| | | | ②職員の2/3くらいが |
| | | | ③職員の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての家族等が |
| | | | ②家族等の2/3くらいが |
| | | | ③家族等の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)